

「中央アジア+日本」対話・第9回外相会合

12月24日(土) 東京

inout
&

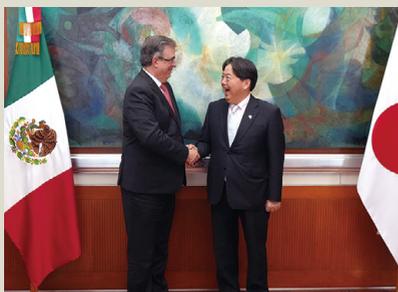
林芳正外務大臣が議長を務める「中央アジア+日本」対話・第9回外相会合が開催された。中央アジアの安定と発展を目的として、地域共通課題の解決に向けた協力のために日本が立ち上げた会合で、「激変する国際情勢の中での中央アジアと日本との協力」「従来からの不安定化リスクへの対処のための協力」をテーマに議論が行われ、「人への投資」「成長の質」に重点を置いた持続可能な発展モデルを推進していくこと、女性や少数派を含む全てのアフガン人の権利の尊重と包摂的政治体制確立の必要性や、暴力的過激主義防止のコミュニティ強靱化への協力などが話し合われた。



会合に先立って岸田首相を表敬した(左から)ウズベキスタンのグラジーミル・ノロフ外相、タジキスタンのシロジッティン・ムフリッティン外相、トルクメニスタンのラシッド・メレドフ副首相兼外相、岸田首相、林外相を挟んで、カザフスタンのムフタル・トレウベルディ副首相兼外相、キルギスのジェエンベク・クルバエフ外相(内閣広報室)

林外相のメキシコ訪問

1月4日(水)~5日(木) メキシコシティ



メキシコのエブラル外相と握手を交わす林外相

林芳正外務大臣は、1月4日から15日にかけて中南米4か国(メキシコ、エクアドル、ブラジル、アルゼンチン)と米国を訪問した。5日にはメキシコでマルセロ・ルイス・エブラル・カサウボン外務大臣と会談。両大臣は日墨外交関係樹立135周年を共に祝い、交流の発展に二国間で取り組むこと、サプライチェーン再構築・強靱化の観点からDXやGX(グリーントランスフォーメーション)分野を含めた協力を進めることを確認した。林大臣は法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化の重要性に触れ、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けた緊密な連携を呼びかけた。